

# 令和5年度第2回宇部市高齢者福祉計画審議会会議録

日 時：令和5年11月24日（金） 19：00～20：30

場 所：宇部市役所本庁 3階 会議室 3-3、防災情報センター

出席者：【委 員】15名

【事務局】12名

【傍聴者】なし

## 1 第9期宇部市高齢者福祉計画の策定について

### (1) 計画の素案について

(事務局) 第8期計画の評価及び宇部市の現状と課題等に基づいて、第9期計画の基本理念、基本目標、重要施策について説明。

(委員) 私が関わっている施設でも外国人が働いており、言語の壁が大きいです。日本語教室を開催するといった支援をしても良いのではないかと思います。

(事務局) 宇部市では、養成機関等を卒業し、介護職に新たに就職した方、異業種から転職した方、復職した方に対し、2年間継続勤務するという条件で10万円もしくは5万円の助成金を支給しています。先日も外国人が申請に来られましたが、日本語が完璧ではなく、勤務先の法人の方が付き添われていました。住まいや言語の問題など、法人で対応してもらっており、そのための負担があることも把握しています。外国人にも、この助成金を活用してもらうため案内を行っています。

(委員) 助成金だけでなく、勤務先に関わらず介護職同士のコミュニティのようなものがあれば、定着に繋がるのではないかと思います。

(事務局) 介護職の横の繋がりについては、参考にしたいと思います。

(委員) 介護職の人材確保について、ICT導入とは具体的に何を想定してい

ますか。また、介護認定審査会のデジタル化ですが、介護職員の負担軽減に繋がる具体的なイメージが掴めませんでした。

(事務局) ICT 導入では、職員の負担軽減となる介護ロボット等を想定しており、国の補助制度の周知を進めていきます。宇部市では今年度は補助申請がなく、法人に調査しましたが、費用や運用の面から積極的ではない状況がうかがえました。

(委員) 関東では介護ロボット等の導入が進んでいるようですが、山口県では少し時間がかかりそうです。

(事務局) 介護認定審査会のデジタル化は、現状、介護認定の結果が出るまでに1カ月ちょっとかかっており、結果が出るまでの暫定の計画を立てる作業が発生し、ケアマネージャー等の負担が増えています。そのため、介護認定の期間を短くし、ケアマネージャー等の負担軽減を図りたいと考えています。

(委員) 介護認定までのスケジュールは把握していますが、具体的なことが分かりません。

(事務局) 介護認定の審査は、書類のやり取りなどで時間が掛かっており、オンライン化ですることによって、郵送期間の短縮やリモートでの会議開催などで効率化していきたいと思えます。

(委員) 具体的な進め方は決まっていますか。

(事務局) 認定委員が使いやすいように、説明しながら進めていきます。

(委員) 介護認定の結果が早く出ると、それだけ早いサービス利用に繋がりますのでお願いします。

(委員) 「基本目標 4 安心」で、通いの場への移動手段が課題となっています。先日、西部第2地域包括支援センターで通いの場が始まり数回参加しましたが、高齢女性が多く、認知症の方は家族が車で送迎していました。通いの場の主な参加者は近隣の人になりますが、真夏や真冬、悪天候の日は歩いて来るのが難しいです。他の地区ではコミュニティタクシーがありますが、時間が合わなかったり、経済的な負担もあります。最近、自治会も担い手が減っており、福祉委員や民生委員も1年交代となっています。

(事務局) 移動手段については、それぞれの地域に合ったものがあると思えますので、担当部署と考えていきます。また、地域の担い手についても大きな問題ですので、計画の中で考えていきたいと思えます。

(委員) 9月に敬老の日がありましたが、今年から地域の高齢者名簿の閲覧ができなくなりました。班回覧で「該当の方は記入してください」ということで今年75歳になる方の把握に努めましたが、この方法

では個人情報の扱いも気になります。「地域で支え合う」といいながら、地域で活動ができない状況になっています。

(事務局) 今回から個人情報保護法の関係で高齢者名簿が提供できなくなり、それぞれの地域で考えて対応していただきました。個人情報は目的に沿って把握し、責任を持って管理する責任が生じます。それぞれの地域で工夫していただいたと思いますので、いい事例があれば共有したいと思います。

(委員) 今回、認知症施策をさらに進めていくと挙げられていますが、病院では認知症や身寄りのない方が増えています。救急搬送された時に、「家族の連絡先が分からない」「お金を下ろす方法がない」「墓がどこにあるか分からないから、亡くなった後どうすればいいか分からない」ということが増えています。認知症予防や見守りも当然必要ですが、自分に何かあったらどうして欲しいのかを決めておくことが必要だと思います。「在宅の時から認知症を発症していた者同士の夫婦がきちんと財産管理できないままサービスを利用している」「病院としてお金の回収ができないまま亡くなる」というケースも多くあります。宇部市でエンディングノートを配布していますが、無くなるペースがすごく早いです。ですが、活用できていないように思いますので、きちんと活用できるようにアプローチをお願いします。

(事務局) 出前講座でエンディングノートの活用や終活について講座をします。地域の説明会などでのアプローチを今後考えていきます。

(委員) 地域包括支援センターにいますが、エンディングノートはみなさんよく取りに来られますが、活用されているのかが把握しにくい状況があります。もらって満足して活用しないまま、またもらいに来る人もいます。エンディングノートや認知症ケアパスについて案内をしていますが、地域包括支援センターだけでは難しいです。サロンに来られない方や情報が届かない方などで、本当に必要とする方へ届けることが重要だと考えています。

(委員) 「基本目標3 尊厳」で、専門職派遣やまちなか保健室などで地域の人と関わる人が多いです。脳には表れていないものの「黄色信号では」と思う人も多くいます。2次予防の部分でどう医療につながるのか、連携したらいいのかというところが分かりません。

(事務局) 脳の健康度を測定する「のう KNOW」というツールかありますが、これは脳の健康度をタブレット等で図ることができ、記憶力や集中力を点数化できます。宇部市としては、診断をするものではなく、

自分の脳の状態を知ることが目的に行っています。こうしたものも活用し、受診のきっかけとなる啓発を行っていききたいと思います。

(委員) 高齢者の一人暮らしが増えています。一人暮らし高齢者は移動手段がなく、民生委員に言えばどこでも連れて行ってくれると思われ、対応できないという「ならどうすればいいのか」と言われます。何かあった時の連絡先として子どもの連絡先を聞いていますが、連絡すると、「縁を切ったから」と言われることもあります。民生委員を増やしたいのは分かりますが、若い人は忙しいことも多いです。また守秘義務の関係で共有したいことをできないこともあります。全体的にうまく回っていないような感覚があり、具体的にどうしたらいいかは分かりません。

(委員) P16 に介護保険料の地域間比較が載っていますが、県下で宇部市は上から 2 番目となっています。1 番の下松市は高齢化率が県の中では低くなっており、高齢化率と介護保険料は比例しないのかと思いました。

(事務局) 介護保険料は、今後の介護サービス利用量や人口推計、認定者数推計などをしたうえで決めていくこととなります。現在 5,980 円が基準額ですが、今後国の動向も踏まえて決めていきます。

(委員) 「基本目標 5 基盤づくり」の介護職理解促進授業はどのようなことを考えていますか。

(事務局) 山口県介護福祉士会、宇部市老人福祉施設連絡協議会と連携して中学校・高校で介護職に関する授業を実施しています。内容としては、実際に働いている人に来てもらい、介護職の仕事の内容やすばらしさを伝えています。今後は、訪問する学校の数を増やしていきたいです。

(委員) P16 のサービス別の月額給付について、訪問介護が全国や県と比べて少なくなっていますが、これは利用者が少ないのではなく、ヘルパーの不足や高齢化が進んでいるのだと思います。高齢化が進み、入浴介助や身体介護など負担の大きい介護が難しいという事業所もあります。

(事務局) ヘルパーの高齢化については聞いていますが、訪問介護は全国より低いですが県とは同じくらいとなっています。これがヘルパーの人材不足なのか、通所介護等で足りているのかは現状分かりませんので把握していききたいと思います。

- (委員) 「基本目標 2 生きがい」について、シルバー人材センターとの連携自体はイメージが湧きますが、「生きがい」と言われると分かりにくくなります。人それぞれの生きがいが違う中で、行政としてどう担保していくのかは難しいと思います。ものづくりなどを通じて、運動と同等のこういう効果があるとか、心身への効果として何が期待できるのかというのを地域の人に伝える役割も必要だと考えています。シルバー人材センターとの連携以外に具体的な取組はありますか。
- (事務局) 自分ができることを認識できることが生きがいに繋がるのではと考えています。趣味やボランティアなど色々な形があると思いますが、役割を持てる場に高齢者が参加しやすいようにしていきたいです。
- (事務局) こういうことをやっていきたいと思ってもできない状況がある中で、生きがいについて一つ紹介させていただきます。現在、宇部市健康福祉部の 4 つの課が連携して「宇部志立第二人生高校男子校」というものを実施しています。デイサービスでは女性ばかり、男性は居場所がないという声が聞かれる中で、モデル実施のような形でスタートしました。これが実際生きがいになるかは分かりませんが、担当者同士が考える中で取り組み始めました。美味しいコーヒーを作る時間など、学校の時間割のようにして組んでいます。こういった小さなことに取り組む中で、市民の意見も大事にしながら、今後に向けてやってきたいと思います。
- (会長) オーストラリアのデイサービスでは、ボーイズデーとガールズデーがあります。

## (2) 地域密着型サービスの整備方針について

- (事務局) 地域密着型サービスの施設整備方針について説明。
- (委員) 地域密着型サービス運営委員会でも、定期巡回・随時対応型訪問介護看護が話題となっていましたが、サービス利用が特に多いのはむべの里光栄が原因だと思います。また、ケアマネージャーアンケート調査結果で、夜間対応型訪問介護の割合が 42.9%あるのに、整備対象は 19.0%の定期巡回・随時対応型訪問介護看護というのがよく分かりませんでした。定期巡回・随時対応型訪問介護看護について、むべの里光栄では 553 人の対応ができるということですが、その方法が他の事業所と共有できれば、他の事業所でも多くの

人に対応できるのではないかと思います。サービスの適正利用を考えると、施設入所をされている方がどのくらいこのサービスを利用しているのかを検討すれば、サービスの適正利用にも繋がっていくのではないかと思います。

(事務局) 夜間対応型訪問介護については、この計画に位置づけなくても申請があり基準を満たせば市として指定ができます。しかし、夜間対応型訪問介護が実際にできる法人が少ないので、既に取り組んでいる事業所と連携して講座等を行い、申請を促すことを検討していきたいと思います。必要性が高くても手が上がらないのは人材不足なのではないかと感じています。

定期巡回・随時対応型訪問介護看護については、むべの里光栄の手法を他事業者にも広げ、受け皿を増やすことを検討したいと思います。

(委員) 看護小規模多機能型居宅介護は、現在宇部市にはありませんが他市にはあり、ターミナル(終末期)の手前の方でも家から利用できます。今の状況では、本当なら家で過ごせるかもしれない人が、「この状態ではデイサービスでは受け入れできない」という状況になると入院せざるを得なくなってしまいます。ケアマネージャーアンケート調査で割合が9.5%となっていますが、ご検討いただきたいです。

(事務局) 法人への調査では看護小規模多機能型居宅介護が必要だと思っているのが6法人となっていますが、公募の意向は0法人でした。介護と医療を両方利用できたり、同じ職員にいつも見てもらえたりするため、関係性を作ることができる良いサービスだと思いますが、人手不足等で整備が難しいため、今回は外しています。

(委員) ケアマネージャーアンケート調査は、何件の回答がありましたか。

(事務局) 59カ所事業所があるが、21件の回答となっています。%だけだと分かりにくいので、次回から件数も記載します。

(委員) 障害者施設に携わっていますが、知らないことだらけだと感じました。障害者は65歳の時点で、障害者支援サービスから介護保険サービスへ移行しますので、介護の知識も付けていきたいと思います。

## 2 その他

(事務局) 会議後の意見提出及び今後のスケジュールについて説明。

<審議会終了>